

つむぎ通信

vol.18

在宅連携センター「つむぎ」

TEL/053-451-2807 FAX/053-451-2808

✉soudan@hamamatsucity-medical-co.jp

在宅連携センターつむぎ浜松

検索

在宅連携センターつむぎは、高齢者を支える医療・介護・福祉関係者の相談窓口として、2015年度に開設しました。「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。バックナンバーはこちらから → <https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/archive/>



地域包括ケア病棟意見交換会が開催されました

令和6年7月22日（月）に「地域包括ケア病棟意見交換会」が開催されました。

この意見交換会は、浜松市内の地域包括ケア病棟を有する7つの病院が、日頃から抱えている問題や課題を共有することで、地域包括ケア病棟の適正な運用に努めるための情報交換を行っています。また、顔の見える関係づくりを行うことで、相互に信頼できる関係を構築することを目的に開催されているものです。

今回は、各病院での病床管理の工夫、退院時の在宅復帰に向けて工夫している現状、リハビリに対する考え方のほか、令和6年度の「診療報酬改定」による地域包括ケア病棟への影響や業務の見直しを実施した点について、意見交換が行われました。

特に在宅患者の支援と在宅復帰の推進を狙いとした「診療報酬改定」による影響については、現状各病院で行っている取り組みについて、活発な議論が行われました。

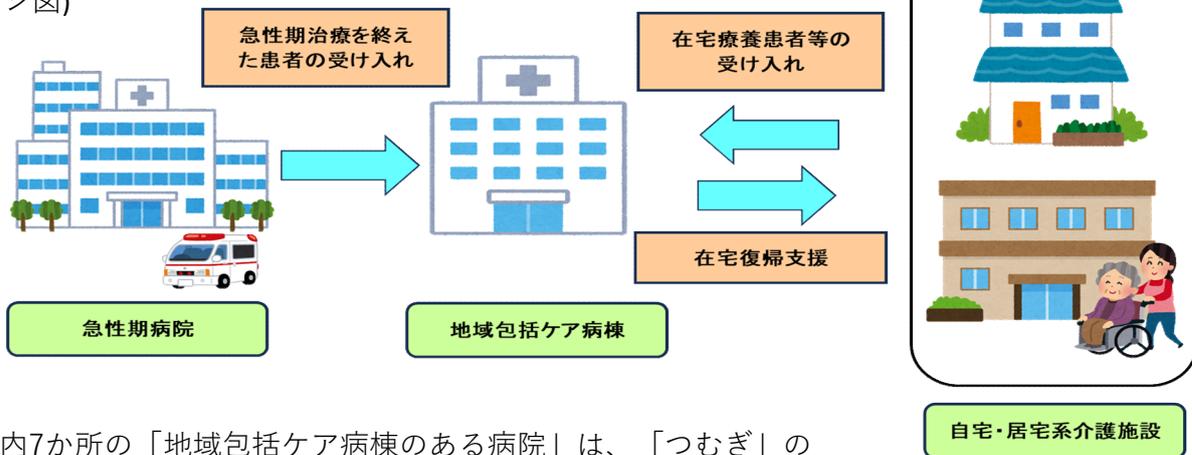


地域包括ケア病棟の役割

病状が安定した患者に対して、住み慣れた地域での療養を支援する病棟です。

レスパイト入院(介護家族支援入院)の相談が可能です。医療行為が必要なため、介護系施設のショートステイが利用できない患者の受け入れ先にもなっています。

(イメージ図)



浜松市内7か所の「地域包括ケア病棟のある病院」は、「つむぎ」のホームページに掲載してありますのでご覧ください。

<https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/resource/care/>





相談事例Q & A ～相談内容を紹介します～

Q → ペットと一緒に入所できる施設があれば知りたい。

A → 本人の状態から入所可能な施設をピックアップし、ペットと一緒に入所できる施設かどうかを確認した。ペットの種類（犬・猫・鳥等）により可否が変わるところや、本人が世話をすること、世話ができなくなった場合の預け先が決まっていれば可能、というところもあった。

Q → 若年性認知症についての相談先を教えてください

A → 診断に至る経緯をお聞きすると入所先の変更を求めている。本人の意思の確認を中心とした声掛けを続け、本人に適した入所施設と一緒に選定した。

Q → 透析を続けながらの一人暮らしに心配がある。自宅以外の生活先を検討しておきたい。

A → 医療療養病床、有料老人ホームなど本人の状態に沿った居場所の選択が重要である。療養生活でのACPについても助言させていただいた。また、つむぎ内のアンケート結果から、透析通院の対応可能な施設の情報も伝えた。



つむぎの相談の流れ

つむぎにご相談いただいた際の、受付から返答までの流れを以下のようにまとめました。

相談を受けた際には、このような流れで対応させていただいています。なるべく早く返答ができるように努めておりますが、相談内容によっては、お時間を頂戴する場合がありますのでご了承ください。

